

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	第2回寒川町地域自立支援協議会
開催日時	平成28年1月22日（金）13:00～15:00
開催場所	寒川町民センター 会議室
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員：森会長、安田副会長、大西委員、江島委員、若菜委員、長田委員、鈴木委員、小川原委員、南委員、小幡委員、竹内委員、古谷委員、梅澤委員、中野委員 ・ 事務局：【町】藤澤福祉課長、中澤副主幹、吉田主査、木内主任主事、塩原精神保健福祉士 【生活相談室すまいる】佐藤、木下 ・ 傍聴者：1名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) ワーキンググループの活動報告について【資料1】 (2) その他 4. 閉会
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日いただいた意見を再度ワーキンググループで検討し、平成28年3月25日（金）の協議会でアンケート修正結果を報告する。
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 事務局：本日はご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。平成27年度第2回寒川町地域自立支援協議会を開催します。5月に第1回立支援協議会を開催し、その後、3回にわたりワーキンググループを開催して相談支援について検討してきた。その内容について皆様に報告し、委員の皆様のご意見を伺いながら、今後の方策等について検討していきたいと考えている。よろしく申し上げます。 2. 会長：あいさつ 会 長：本日はお忙しい中、第2回寒川町地域自立支援協議会に出席していただきましてありがとうございます。昨年5月28日に第1回自立支援協議会を行い、その中では相談支援とい

うキーワードで、今後受ける側、支援する側、双方の部分をとらえながらどう作っていくかということで3回にわたって検討されてきた。本日はその報告を伺いながら、協議会の部分の支援の仕方等について繋げていければと思っています。

事務局：資料確認

傍聴 1名

議事録承認委員 大西委員、若菜委員

3. 議題

(1) ワーキンググループの活動報告について

事務局：前回までの協議会の流れの説明をして、皆様に確認いただいたうえでワーキンググループの活動報告していただく。

5月28日に開催した自立支援協議会の中で、協議会の在り方について意見を頂いて決定したもので、議事録を配布。

協議会の中で課題を検討していかなければならないであろうということで、相談支援体制が相談を受ける立場で相談支援事業所がどういう役割をしているのか行き届いていない。

情報も共有されていない中で、実態はどうか、話を頂いたので、町の相談体制はどういう体制なのか把握していくことから、今後の寒川町の相談支援体制の構築、システムづくりの手掛かりとして3回に渡り協議をしている。ワーキンググループメンバーは当事者、当事者の家族、支援にあたる事業所、医療関係、相談支援事業所である。

委員：キーワードは相談支援。

アンケート、ヒアリングの前に、相談支援に関わることをワーキンググループのメンバー、役場の方がどんなことを考えているか、どんなところに問題があるか、現実にはどんな現象が起きているか、フリーディスカッションして色々と意見を出していただいた。

様々な所で意見を出し合って、問題関連図でまとめている。

2回目は1回目のワーキンググループを踏まえて、出た意見の内容訂正。

3回目のワーキンググループとして、どんなところを聞いていかなければいけないのか、誰に聞くのか、まとめ上げた結果を説明。

アンケート内容の概要について

(1) 相談の流れ。

一次相談者（仮）は最初に相談に行きやすい場所で、本人、家族、友人、近所、民生委員、自治会、病院、学校、保育所、保健師、子育て支援員、警察、消防（救急）。

仮に、民生委員にお金の相談に行ったら、社協、町の福祉課総務担当

などと繋がってくる。

学校の一般級で問題があったら支援級の先生に相談。

当事者団体は仮に二次に入れてある。

3次は実際に相談を受ける所。

相談支援事業所、町の福祉部と健康子ども部、児童相談所、精神科、心療内科。

そのあとはもっと具体的に、自分の病気が見えてきた時に、日中事業所、移動支援事業所、グループホーム、放課後デイ、児童発達等で相談が流れてくると想定して記載。

相談事業所に来る相談は、相談員が入って記録にも残る。

その前の段階で、どんな相談があるのか、相談事業所や町に来ていないところで、どんな相談が隠れているのか見えないので、そこを中心にヒアリングアンケート等の実施をやってみてはどうかとなっている。

(2) 相談された場合のパターン

相談に行って対応することが一般的な相談の流れ。

対応の内容としては、相談者が話をしただけで帰る場合。

相談員がその場で解決できてしまう場合。

相談できる相談員または施設を紹介した。

何もできずに終わってしまう場合。

結果としては解決した、解決しないがある。

ここのところをアンケートの内容にしたらどうか。

尚且つ、アンケート(1)の前段階のところ、一次、二次までどう含めるかというところでアンケートを取ったらどうか。

アンケートの内容はこの様式でどうか。

ワーキンググループの立場として色々な相談支援に関わることを話して、まとめることが出来た。

今日審議していただきたいことは、アンケートをどういった方に聞くか、どういう内容を聞くか。

その内容が、良い、悪い、もう一度考え直すも含めて、話が出来れば良い。

この内容で良ければ、アンケートの項目を審議し、再度ワーキンググループで内容を検討し、最後の自立支援協議会で最終的に今回のまとめをする。

来年度の活動はアンケートを取るようになると思う。

会 長：対象者をどこに絞るのか、5つの項目についてどうするか意見を頂きたい。

委 員：項目については良い。対象者に関しては、何を目的にするかによって変わってくる。それに関してはここできちんと話をした方が良い。

委 員：ワーキンググループの皆さんありがとうございます。ワーキンググループで考えた対象者は誰なのか。

委 員：最初に相談を受ける一次の中で、保育所、学校、警察、消防署は除く、民生委員、自治会、一般病院、保健師、子育て支援員。二次の、福祉課総務担当、社協、当事者団体はどうするか。

委 員：学校関係も入れた方が良くと思う。子供を対象に考えることも必要では。

委 員：協力してもらえないかわからないので、協力していただけるのであれば入れてもよろしいでしょうか。

副会長：ワーキングの中でも意見がまとまりきれなかった。
学校についても、特別支援学校、町立の学校についても、支援級と一般、ワーキングの中では一番身近な一次・二次のところで、相談を受けている方たちが、どういう風にこの先持って行ったらよいか困っている。
相談をする方も困っているけど、最初に受けた身近な方たちも、その先の繋ぎ方に苦勞されている。
そこからつながらないことによって、相談の展開が無いことが地域の困り感。
町内の保育園は少ないが、学校になるとどういうところを対象にするのか。

委 員：全クラスは難しいので学年主任の先生にお願いする形で良いと思う。

委 員：小中学校を対象にしてはいかがか。

委 員：学校の先生は多忙のため話をしに行きにくい。

委 員：直接依頼文を書いて、教育委員会から校長先生宛に持って行ったらどうか。

委 員：民生委員は相談を受けることが多く、昨年度から民生委員から広報を作ったが、その中で、悩み事のアンケートがあったが、民生委員がどこまでやったら良いのか分からない。
活動報告書を書いて、記録を残しているので総計は上の方に言えば集められる。
民生委員は平均年齢が非常に高いので、単純明快にしてもらわないと理解が難しい。なるべくわかりやすくしてくれたら大丈夫。

事務局：民生委員は総勢86名、幅広い相談を受けていると思うが、組織の中でそれぞれの役割があると思うが、初期の相談の実態をアンケート。ターゲットを絞らなくてもよい。

委員：記録を、月に1回集計、県に報告している。
障がい者部会だから障がいの事を受けるのではなく、地域の事を地域の担当者が受ける。
個人的なこともあり、自分たちの知らない所で解決していることもある。

委員：民生委員のアンケートを実施する時に、趣旨説明と目的を説明することが良い。

委員：自治会は23ある。
内容については良いと思う。アンケートの内容に基づいて説明してほしい。
自治会は、要援護者、町内の色々なアンケートを取っているの、ある程度把握している。

事務局：アンケートを実施するにあたっては、皆様のご協力を頂かなければいけないので、事前に入念な説明をさせていただき、役員の方に相談したうえで実施したいと思う。

委員：民生委員、自治会が表立って行くのでは。協力していけばよい。

事務局：なるべく手間にならないようにアンケート内容の問い合わせは明解にしたものにします。

委員：簡素化されていけばよい。

事務局：アンケートを実施し、統計的、数値的な部分を把握して、もう少し踏み込んだ回答に対し、具体的に何うことが出てくるのではないかと想定している。
今後、グループの中でもヒアリングをする必要がある。一次のアンケートの時にアンケートを整理した上でその後どうするか、もう少し踏み込んだヒアリングが必要ではないか見極める必要がある。

委員：対象者の問題等が出ていたと思うが、ワーキンググループの中でも対象者をしぼることに議論がでていた。今回のアンケートで集約されていくだけでなく、その先に発展性もあるかもしれない。
相談事業所を対象、当事者にアンケートを実施するか。
相談事業所に相談に行ける行けないも協議会の中で話題に出ていた。
役場、相談事業所など障がいの本題を扱ってくれるところに相談に行くのは、何か本人たちに困り感があればそこで展開していく。
一次で相談を受けている人は、相談の仕方、内容、相談先、情報が欲

	<p>しい方。第一に入った問題を、どう展開していくのかが大切。 第一の相談を受けている方、日常相談を受けてる方、普段援助している方がどう思うのか、どう今後展開していったらよいのか、検討が必要。 実際検討してみて、次に改善策など何かが検討出来た時に、それを受けて、当事者の方がどう見るかというところまで先々考えられたら良いという話題は出ている。 第一に受ける方にアンケートを行って、どういう事で困って、どう展開できなかつたのか、どう展開したのか、今後どうしていったらよいのかを聞いて地域の中で潜在的にある課題が表に出てくれば良い。</p> <p>委員：たどり着かないで挫折する場合等、全体を知る事であれば、学校、自治会、民生委員にアンケートをやっていくのがスタートでは。 組織的に会を通して降ろせば、出来るのかどうかまだわからないが、自分でも働きかける先があれば協力したい。</p> <p>委員：学校の先生、民生委員、独自に動いて解決した等、具体例もあげてもらえれば良い。</p> <p>委員：当事者の意見も必要だが、アンケートに参加してくれるか難しい。 本人が、どういう思いで相談を持ちかけたかを知るのは難しい。</p> <p>委員：気持ちを知るのは難しい。</p> <p>委員：基本このベースで良いが、相談者のところが、本人、家族、友人、近隣住民でない場合があるということ。 相談は無いけれど、気になっている方がいるのを、ここにどう表すのかということが一番大切な部分でもある。 その他に入れるのか、相談者なしで入れて、そこに説明を加えて、主訴が分からないが非常に多いことは、現場の人達が困っている、困っているから介入できないからこそ、そのまま浮彫りになるので、具体的に書く作業が増えると難しいのでは。最初は数字が分かる、相談者がいないという数字が多ければ多いほど埋もれている方がいることが把握できる。 それを分かるように、もう一枠作っても良いのではないか。</p> <p>委員：別枠に相談者は無いが、気になったケース。介入も出来なかったが気になった人の項目があると良いかもしれない。</p> <p>会長：相談を受ける側の対応の仕方、相談者自らどこに行ったら良いのか、知りたい内容ではないのか。 どこに相談に行ったらよいのか迷ってしまう当事者のアンケートも必要ではないか。</p>
--	---

委員：当事者団体を考えてみると、団体に入っている方は、なにが問題なのかかわかっている。
それ以外の当事者だと分からない。
当事者団体をヒアリング対象にどう持ってくるか、話が出来ると良いかと。

委員：当事者のアンケートは昨年行っているので、再度になってしまう。

会長：アンケート結果内容を検証することが必要。
来年、社協では懇談会形式で民生委員、自治会等から地域で困っている内容を出してもらおう予定。

委員：このアンケート、前回のアンケートを持って、何をすべきかというところで動こうとしていると思うので、どこに切り込んでいけばいいのか、浮き彫りにしていく必要がある。
相談があった方を繋げてよいか分からないのか、相談が無い方がこれだけいて、どこに繋げてよいか分からないかによっては、今後の聞き込みが違う。
埋もれている方が分からないのであれば、広報の仕方をどうするのが次の段階。

会長：実態把握をしていかなければならないと思う。

副会長：ワーキンググループの中でも話が出ていたが、昨年度のアンケートは、圧倒的に相談支援事業所に相談する方が少ない。実際相談した経験のある方もすごく少ない。
困っていないのかと言ったら、困っていることがあるかもしれないが相談の仕組み自体を知らない。
一方、相談支援事業所の数も少なく、沢山の方が来られた時に、十分に支援が出来きるのか。
また、受ける側の機能をどう強化するか、仕組みを作って困っている人がいた時にどうやって手助けをしていけるかという力をアップしていくことに、今回のテーマを持って行った方が良い。
当事者というよりは、受けて側の感覚、困り感を確認できるアンケートが良い。
実情が分かった時に対応を出来る機能が無いとアンケートだけして困ったことを聞くだけで終わってしまうこともある。
一足飛びにはいかないが、町全体で相談を受ける側も助け合いながら機能を強めて行けることが必要なので、アンケートを実施できると良いとたどり着いた。
当事者団体にアンケートのお願いをするかどうか迷ったのはどうい

う事かという、当事者団体に加入している方たちの困りごとというのは、すでに団体の代表者たちに相談を受けられていて、相談できているのではと考えた。団体の代表者はエキスパートなので、相談した時にどこに繋がたらよいのかはご存じなのではないかと。したがってアンケートは無くて良いのではないかと。
実情を考えるとアンケートをお願いした方が良いのか、意見を頂けると良い。

委員：当事者団体の方の役割は2つある。家族として、当事者として、家族を含めて当事者という立場と、受ける側も専門的な色々な知識と情報を持って、相談を受ける立場の両方の二重の役割がある。
相談を受ける側になると、制度、サービス内容が詳しい所がたくさんあり専門家になる。
当事者がどういうところで困っているのか次の段階でアンケートを頂いても良いのではないかと。
表面に出てこない当事者の方には中々アンケートは出せない。
どこまでやっていったらよいのか。

委員：やるべきこと、やらなければいけないことがあるが、当事者団体の方は、一人で何役もこなしている中で、今回は、相談支援というキーワードがあるので、そういう意味では寒川町でもソーシャルワーカーもいるので、触れる方を増やすのであればあまり広げないで小さなことをまず拾う。
触れる方の立場の困り感は違うと思うので、触れていない方に触れる場所を分かってもらうところからスタートしていくのが良い。

委員：当事者団体が入っていることは、一歩障がいを受けているので、まだ何処に相談してよいのか分からない方達よりは一歩乗り越えている。
どこにも属していない方を知ることが大切。
一時の段階の方達からアンケートを始めたほうが良いと思う。

会長：全体的には一次の方からが良いとします。
アンケートの質疑の内容について。

副会長：アンケートの内容については、皆さんから意見をいただいている、本日意見を頂いたものを踏まえて練り直す。第一次の方に説明し趣旨も理解してもらうことが必要なので、スケジュール的にある程度余裕が必要。
意見をいただいているのは、本人が相談に来ていないが、受けて側の方で困っているのではないかと、気になっていたり、対応していたことがあるか書き込めるようなところがあるとよい。

具体の趣旨案としては、訴えの件数のところの相談者のところを一つ足して、相談はないけど気になっている件数が書き込めると良い。分かりやすく、簡素にとの意見があったので具体にしておくとも分かりやすい、項目としてもプラスするか、もう少し意見を頂いたほうが良いと思うがいかがでしょうか。

委員：目的の部分をこういう目的で、とはっきり説明をして欲しい。
以前、高齢者調査で準備不足のためどんな目的でやるのか、この結果をどうするのか、曖昧なため民生委員と町でもめたことがある。

委員：趣旨を書いて、その結果をどう言う事に使うのか書いて欲しい。

委員：3、4番の質問を減らしたほうが、プレッシャーにならない。3件くらいでよいと思う。

欄だけ設けて書けるだけ書いてもらう。

事務局：印象に残った、対応に悩んだ、というのはかなりの印象度、苦労度があると思うので、そうなると逆に絞られてくると思う。

色々な経験、相談件数も踏まえていればいるほど、印象に残ったことが困ったこと。

ワーキンググループの中では、こういう危機感を確認した方が、より具体的な困り感が見えてくるのではないかと言う事で設定。

委員：記載方法で、1年間の件数を、全ての件数でやっているが、それはどうやっているのか。分母は同じ数字が入る。

何件中の何件は入らない。

副会長：民生委員の方は、毎月集計を取っているので、少しでも項目、集計の仕方が合っていたほうが分かりやすいのでは。

ワーキングでは、障がいと言う切り口で、障がいのニアミスみたいなところの切り口で考えていたので、金銭、医療で困ることも有り、こういう項目にした。

集計の仕方が違うと、答えづらい事もあると思うので、言葉自体違うものもある。

項目を参考にさせていただけると、今まで集計された結果が共通に確認できると思った。

件数の記載の仕方についても、どうすると実体が見えるか、民生委員の人は毎月集計を取っているので、計算の仕方もあると思うので教えていただきたい。

どんな項目があるか。

委員：金銭、生活、介護。

相談を受けた方が集計した時に複数回答になると思う。

重複して相談の主訴が出てくる、それを底まで踏み込んで相談を受けるのは専門家のほうの話になってくる。

第1で受ける時は、複数回答可でも良いのかもしれない。そうするとすごく広くなってしまうので集計の時どうなのか。

委員：自分で書いている時でも迷う時がある。

複数回答になるけれど、全体像が把握できるかもしれない。

副会長：相談が複数にわたったら、それぞれの領域で数を提示していく方法もある。説明も丁寧にしないと難しい。

委員：大まかな数を出してもらって、複数回答可にしてもらい上げてもらうのが良い。

委員：件数を把握するよりも出てきたものが埋れているのかどうなのか、相談支援として出来るのかどうかなので、件数が少なければ切り込み方も違うし多ければそれも違う。

何分の何と出せるものを書いてもらったほうが良い。実数として困り感が出る。

副会長：今の案で言うと、分母、分子の形式ではなく、この1年間で、何件でこの程度の相談を受けているか、またこの内容にあてはまるとどうなるのかと言う形にするか。そこを修正。

主訴の項目については、民生委員の方と計の項目を擦り合わせて、食い違いがないように出来たら良いと思う。

委員：民生委員としてはオープンにできるのか。

委員：個人的なことが漏れなければ、件数としては問題ない。

副会長：ワーキングではA4片面1枚にした。

委員：書きたい方は裏にも書く。

委員：ざっくりで良いので、相談を受けて困っているのが何割ぐらいか、聞けると良いかもしれない。

委員：それをやるのであれば、3と4を分けずに項目を代表的な相談パターン、印象に残ったパターンにまとめた方が良い。具体的な件数が分かるほうが良い。書くことが一緒になる可能性がある。

副会長：3と4を整理して1項目にし、書きやすい形に整理する意見を頂いたが宜しいでしょうか。

委員一同：承認。

副会長：増やすと回答が大変になるので1ページにまとめる作業と答えを頂いたいくつかの項目については、ワーキングで検討させていただく。

会長：今後の方向性、スケジュール等について。

事務局：ワーキングで今日いただいた意見を検討したものを、3月25日（金）

協議会でお知らせします。

実施時期は来年度の実施となる事を了解した上で、3月25日（金）、アンケートの時期をお示しできればと思っている。

異動の時期とか自治会の役員交代の時期が違うので、アンケートを一斉に行えないのでは。

委員：民生委員は、平成28年12月の改選。

委員：自治会は今年12名の交代を予定しているが、変わったとしても、アンケートには協力していく。アンケートの内容に基づいて、町からの要援護者のアンケートも参考になる。

事務局：協議会でアンケートの見通しがつける段階になって、時期を決めていくのが最後の協議会だと思う。

タイミングに合わせて、協力いただけるところには、事前に説明をさせていただいてから実施をさせていただきたいと思っている。

会長：ワーキンググループの活動報告については終了。

(2) その他について

副会長：寒川町障がい者事業所連絡会で、12月8日～11日にかけてにっこりマーケット展示即売会を開催。

当事者団体活動のパネル展示。

来場も多く、売り上げ270,880円。5回目の開催で、過去最高の金額。障がい者の日を挟んで、町の協力を頂いた企画として、良かったと思っている。

お忙しい中、当事者団体の方にはわかりやすく、良いパネルを用意して頂きまして、ありがとうございました。

事務局：コロ棒の着ぐるみには事業所連絡会の方も入ってくれた。

副会長：当事者の方も入りたいと希望があった。

次回7月に開催。

平成28年2月4日～10日、第5回にじいろのなかまたち展を開催。

是非お立ち寄り下さい。

事務局：次回の協議会は平成28年3月25日（金）町民センター1階会議室で13時からとなります。

事前の資料配布を予定しています。よろしくお願いします。

副会長：年始のお忙しい中、有意義な話し合いが出来嬉しかったです。

少しずつ委員の方と話し合いをする事で、町の中に住んでいる方達の思いに近づいて行くための話し合いが出来てよかったと思っています。

	<p>次回の協議会、来年度のことで、調査をしていく中で、町の皆さんと繋がる機会がたくさん作っていただけると思うので、次回まで、ワーキングの方で準備していきたいと思う。今日はありがとうございました。</p> <p>4. 閉会 副会長：本日はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p>		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>3議題</p> <p>(1) ワーキンググループの活動報告について アンケート（案）の修正点、改善点及びアンケート実施機関等が協議され、次回の協議会で再度、アンケート（案）を示すこととなった。</p> <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ にっこりマーケット展示即売会の報告とお礼 ・ 第5回にじいろのなかまたち展の紹介 		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 【資料1】 委員名簿 ・ 【資料2】 ワーキンググループ名簿 ・ 【資料3】 アンケート（案） 		
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p>若菜美代子委員 大西洋子委員 (平成28年3月31日確定)</p>		